

ある編集委員の留学記

その1:申請から出国, 現地での生活準備まで

関屋大雄 千葉大学

1. まえがき

通信ソサイエティマガジンを御愛読頂きありがとうございます。私は、本マガジンの編集委員でありながら、本年2月末よりアメリカ・オハイオ州で2年間の留学生生活を始めました。その間、編集作業をお休みすることになり、代わりの仕事(?)として、留学記の執筆をすることとなりました。今回は留学の申請から、現地での生活準備までの話をさせていただきます。

2. 留学制度

海外の大学に入学し、学位を取得するという意味での「留学」のほかにも、いわゆる「海外留学」するための手段がいくつかあります。COEの一環として海外留学を奨励するシステムが準備されている大学があります。このような大学では在学中に短期留学を経験できることと思います。海外留学を支援する財団もあります。また、国が海外留学を支援する制度もあります。企業が海外留学を奨励しているところもあると思います。これらの制度の多くは「若手」に対象が限定されている場合が多いようですが、調べるといろいろなところにチャンスがあることが分かります。

私は今回「日本学術振興会海外特別研究員」[1]に採択され留学させてもらえることになりました。本制度の対象は「(申請年度)34歳未満」「博士の学位を取得、または取得見込のもの」です。派遣期間は2年と長いので、腰を据えて研究することができます。当初は医学系、理学系だけが対象でしたが、途中から工学系も派遣対象になったようです。年齢制限ぎりぎりですべて初めて応募し、いわゆる一発勝負でしたが、幸運にも採択され現在に至っています。

3. 申請書の作成

海外留学への道は、その多くは申請書を作成するところから始まります。ここで海外留学を成功させるための大切な要素が入ってきます。それは「研究テーマと留学先」を申請書を作成する時点で決定しなければならないという点です。申請書を書くのは、実際に留学に出る約1年前になります。博士

を取得した直後などは、置かれる環境によって研究テーマが変わることが多々あると思います。しかし、「留学すること」を第一優先で考えると、研究実績のある分野(学生時代のテーマ)で申請しないと採択されないのでは、という心配も生じます。したがって、この時点での研究分野と留学先の決定は非常に難しく、決断が必要でした。更に、留学希望先にアポイントをとって「もしかしたら」の状態の内諾をもらっておく必要があります。この行程もなかなか面倒です。実際に申請書を書こうと思っても、この時点で挫折してしまう方も多いのではと想像します。しかし、私の経験では、ここが最大の難関で、乗り越えてしまえばそれほどの面倒はありませんでした。申請書を完成度の高いものにするためにも、公募が出てから対応するのではなく、早くからこつこつと申請のための準備を進めておくことがポイントかもしれません。

さて、私の場合はいろいろな選択肢の中から留学先を決めようと思い、以下のような手段で打診してみました。

- A. 国際会議で知り合った先生に打診する。
- B. (面識のない)論文・本の著者に打診する。
- C. その分野のパイオニア(アメリカの企業の人)に紹介してもらう。

そのほかに上司、指導教員に紹介してもらうという方法もあるかと思います。私は合計10名近くに打診してみました。概してAでの打診は良好な、Bは定型文にはまったような回答が主でした。Bに対する回答では、ほとんどの場合「机とコンピュータを準備するので、月\$1,000支払ってください」という条件が付記されていました。



国際会議の場でよく話しかけて頂いた先生とその分野のパイオニアに紹介して頂いたリストの中で最初にあった名前が一致したこともあり、アメリカ・オハイオ州にある Wright State University を留学先として決めました。ちなみに、「Wright」はライト兄弟の「ライト」からきており、この街で生まれたそうです。大学のシンボルも飛行機です。

4. 出国の準備

無事採択内定通知を頂いたのが10月。出国予定は翌々年の2月としていましたので、出国まで1年半くらいの余裕がありました。出国までまだまだ時間があるなー、とぼーっとしていたのですが、年度が明けた4月に、どれどれ下調べでも、とネットを検索すると「アメリカの大学の手続きは相当のんびりしており、日本の感覚で進めると痛い目にあう」「早めに準備をするにこしたことはない」など、怖いコメントが数多く目につきます。それでは、と重い腰を上げて手続きを始めることにしました。

ビザの申請

私の場合、J1ビザ（交流訪問者）での渡航となります。このビザをとるための手順は

1. 留学先の大学から DS-2019 という書類を受け取る。
2. SEVIS と呼ばれる「交流訪問者が参加する各非移民プログラムのための1回限りの費用」を支払う。
3. ビザの申請をする。

となります。結果からすると、DS-2019の取得が一番大変でした。トラブル防止のため、1.メールと同時にFAXも送信、2.できれば電話で確認、をした方がいいと思います。私の場合、メールだけで対応しようとしたため、私のメールが迷惑メール扱いにされていたことに互いに全く気づかず、書類の取得に4か月要しました。

このDS-2019を取得すれば、あとは日本のみでの作業となり、SEVISの支払い、アメリカ大使館でビザ取得の審査を受けることになります。私は書類作成の手間と確実性を考

えて、旅行代理店のビザ代行手続きを使うことにしました。大学関係者であれば生協などに特別料金が設定されたものがあると思います。SEVISの支払いのタイミングも指示してくれました。なお、SEVISはすべてネット上で処理できます。仮の領収証が画面に出てきますので、それを印刷すれば手続き完了です。

面接は出国予定日の3か月前から入れることができます。代理店を使うと書類内容が信頼されているため、面接当日の手続きが迅速に進みます。さて、大使館では指紋をとった後すぐに面接が始まりました。面接内容は日本語で「どこに行くのですか?」「どのくらい行きますか?」と聞かれて終了。「あなたにビザが発給されました」という用紙をもらって、大使館を後にしました。これでめでたくビザの取得が終わりました。

保険の加入

保険の加入は必須条件です。私は日本の保険会社を使用しましたが、日本で入らず、留学先の保険に入るという手もあります。ところで、自動車保険はアメリカで入ることになりますが、日本での運転履歴が考慮されないため、通常保険料が高額になります。保険会社によっては、日本の運転履歴をアメリカの自動車保険に反映させてくれるサービスがありますので、選択する材料の一つになると思います。

住まいの決定

住む場所は都会であればいろいろな選択の余地があり、現地に着いてからしばらくはホテルに滞在し自分の目で確認して探す、という手段があるのですが、私の行くところは地方なので選択の余地はほとんどありません。アパートは、留学先の先生にいくつか候補を挙げてもらい、先方に直接電話して決めました。

到着後すぐに支払いがあったのですが、現金、クレジットカードは受け付けてもらえず、出国前にトラベラーズチェックで支払う了解をもらっておきました。



国際免許

国際免許は1年有効なので、留学期間が短ければこれで事足ります。一方、アメリカで免許をとる場合も、国際免許があると実技試験が免除されるケースが多く、車の取得がスムーズに進みます。

荷物の運搬

最後に荷物の送付を。送ったものは衣類が3箱分、そのほかには炊飯器、研究資料ぐらいです。



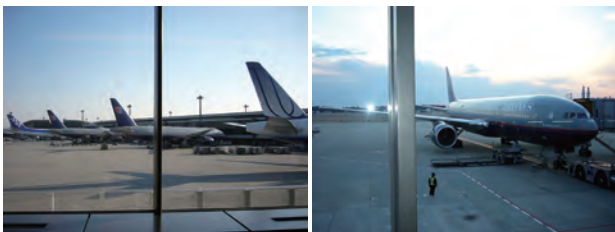
日本人はやっぱりお米です。炊飯器は重宝しています。

その他

歯医者に行ってチェックをしておくといいと思います。アメリカでは医療保険に歯科は含まれず、高額な治療費がかかるそうです。私の場合、1本虫歯が見つかり、無事治療してから出国できました。

5. いよいよ留学生活開始

出国日、日本からシカゴまでのフライトがキャンセルになるというトラブルもありましたが、無事現地に到着し、いよいよ留学生活の開始です。



まずは生活基盤を整えなければなりません。電気、水道、電話、インターネット、ケーブルテレビなど生活基盤の準備が必要です。こう考えると、身の回りの生活基盤に「電子情報」はとても重要な位置を占めていることを改めて感じます。

電気・水道

アパートの契約をする際、管理人さんに電力会社に連絡をとってもらい、契約をしてもらいました。当然、この時点では Social Security Number はありません。その場合、通常より高額なデポジットを要求されることになります。水道はアメリカではアパートの管理費に含まれることが多く、私の場合もそうでした。また、アパートはすべて電気（オール電化というイメージとも違うのですが）なので、ガス会社との契約は必要ありませんでした。

私がオハイオに到着したのは2月末でした。この時期、オ

ハイオ州はまだ大変厳しい寒さで、3月中旬には記録的な大雪が降りました。



このような環境ですから暖房がないと凍えてしまいます。暖房は部屋ごとにコントロールするのではなく、付けたりすべての部屋が暖くなる仕組みです。エネルギーの効率的な利用など全く考えていないように感じます。

Social Security Number

アメリカで生活をするには、この“Social Security Number”を取得しないことには何も始まりません。申請にはパスポート、DS-2019、そして大学でもらう書類が必要です。それらを Social Security Office に提出し、あとはひたすら待つことになります。ひと昔前までは、電話で番号を覚えてもらえたそうですが、現在はセキュリティの問題でそれができません。最終的にはカードとして送られてくるのですが、その取得までには通常3週間かかるのが相場だそうです。しかし、これがないと話が進まないものがたくさんありますので、一刻も早くこの番号を取得したいというのが本音です。裏技としては、「番号は準備でき現在カードの作成中です」という手紙が届きますので、それを持って Social Security Office に直接聞きに行きます。すると番号をその場で教えてくれます。これで1週間ほど期間を短縮して番号を知ることができます。事務所に行く分余計な時間はかかりますが、どうしても早くほしいという方はぜひお試しください。

銀行口座

アメリカでの公共料金は小切手で決済することがほとんどです。そのためには、アメリカで銀行口座を作る必要があります。私の場合、大学に入っている銀行で口座を作ったため、大学の身分証明書で代用でき、Social Security Number は事後報告でいいといわれました。口座には“Saving”と“Checking”があり、前者はキャッシュカードの引き落としのための、後者は小切手の引き落としのための口座になります。

これを作った直後、日本から送金してもらいました。ちょうど円高で100円を切ったときであり、「神風が吹いた！」と大喜びでした(注：本原稿は5月上旬に書いています)。

情報インフラ

Social Security Number を取得できると、種々の情報インフラの契約を進めることができます。私は固定電話、携帯電話を電話会社と、ケーブルテレビとインターネットをケーブルテレビ会社と契約しました。固定電話、ケーブルテレビ、

インターネットはセットで電話会社、またはケーブルテレビ会社1社と契約することも可能で、両者は激しい競争を展開しています。なお、インターネットのスピードは都会でないこともあるのでしょうか、日本とは比較できないくらい遅く、料金も高額です。日本では当たり前のように「ひかり」を自宅に使っていましたが、それがいかに恵まれた環境であるかをこちらに来て初めて実感しました。

携帯電話はアメリカのクレジットカードの履歴 (Credit History) がないので、通常のプランで契約するために高額なデポジット(\$500)を請求されました。このデポジットは1年後に返ってくる仕組みなので、滞在が1年の場合、通常のプランではなく、プリペイド式のプランを選択する場合があります。

日本とのやり取り

日本とのやり取りはほとんど Skype™ [2] で済ませています。パソコン間は無料であること、ビデオ電話ができることは魅力的です。こちらの回線が細いため、ビデオ通話では、とぎれがちになることがあります。ビデオが停止しても音声はしっかり届き、QoS制御がしっかり効いていることを実感しました。アメリカでは Skype で電話をかけることもできますので、日本への国際電話も Skype を使っています。

自動車免許

免許の取得にも Social Security Number が必要です。Social Security カードと国際免許証をもっていき、筆記試験だけで免許が発行されました。筆記試験ですが、交通局のサイトを見ると、練習問題がのっていました。州によって交通規則が違いますので、簡単な予習をしておいた方がいいと思います。標識の意味などは日本と変わりありませんが、農耕用自動車の規則、飲酒運転でつかまったときの罰についてなど、勘に頼らないといけない問題もありました。なお、オハイオ州の場合、試験は機械に向かって答える選択式で、日本語で試験を受けることが可能です。

自動車

アメリカ、特に地方で生活していく上で、自動車は欠かすことのできない買い物です。おそらく留学中最も高価な買い物が自動車になりますので、購入を決断するのも勇気がいります。自動車の購入は予算との相談になりますが、ピンからキリまであらゆる自動車が検討対象となります。壊れてもいいような安い車を買って普段の生活に利用し、遠出の際はレンタカーを利用するという手段もあるようです。

こちらの先生と相談したところ、日本車は中古で売るときに値段の落ちが小さいこと、かつ、値段の落ち方は割合ではなく、絶対額が同じであることから、日本車の新車を強く勧められました。結局写真の車を購入しました。購入の際には教授にも付いてきてもらい、値段交渉をお願いし、10万円弱の値引きに成功しました。交渉の事前知識として、相場を把握する必要があります。“Kerry Blue Book” [3] が有名で、事前に相場を調べておくことは必須だそうです。最初は仮のナンバープレートで運転します。その後、権利書が郵送され

できますので、自動車の登録を行い自分でプレートを取り付けることになります。

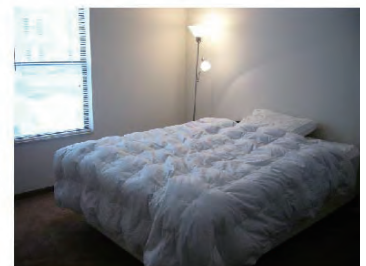


自動車保険

こちらの自動車保険は、原則として、日本の運転履歴は考慮されませんので自動車保険料は高めになります。運転履歴を考慮してもらえるサービスのついた保険に日本であらかじめ入っておくといいかもかもしれません。職業、既婚/未婚、通勤に使うのか、などによって料金が変わるようです。私の場合「州立大学の研究員」という立場が良かったのでしょうか、公務員向けの保険会社を通じて比較的安く自動車保険に入ることができました。

その他

到着したときとても寒かったこともあり、寝具の購入を急ぎました。一人暮らしの身としては、ベッドと机、椅子があれば家具は十分でしょうか。また、アパートにはリビングルーム、ベッドルームともライトがついていませんので、それも購入する必要があります。



生活必需品はショッピングモールに行って購入することになりますが、車がないと行けませんし、持ち運びも大変です。そのため、買い物に協力してもらえる人を探すのが必須です。先生、及び同じ研究室の学生がいろいろと助けてくれました。

インターネットを通じた購入も便利なのですが、電話番号の登録が必要なので Social Security Number の取得待ちになってしまうという問題があります。また、会社によってインターナショナルカード(日本のクレジットカード)を受け付け



ないというところもありますので、条件を熟読することが必要です。テレビを買おうとネットで申し込み、受付のメールも返ってきたのにその後しばらく待っても商品が届きませんでした。そこで、電話で確認したところ日本のカードだから駄目だった、ということがありました。このような場合、向こうからこちらに指摘することはまずありません。詳細を熟読しなかった方が悪い、ということです。

アメリカは日本と比較して、まだまだ電話社会だな、と感じます。インターネットで申し込んでも多くの場合最後は電話で確認しますし、電子メールで質問しても返答はほとんどなく、結局電話をしなければなりません。

6. 大学の環境

Wright State University は 17,000 人近くキャンパスにいるようですが、どこにそんな人が隠れているのか、と思うほど空間的にゆったりしています。また、時間もゆったりと流れている感覚があります。大学内だけでなく、街全体がそのような雰囲気をもっています。先日運転していると、列をなしてガチョウが道を渡っているところに遭遇しました。このようなときも、みんなにこにこしながら、ガチョウが渡り終えるのを待っています。

街全体せかせかせした雰囲気がなく、おおらかに過ごしている感じがします。地元の人がいわく、「ニューヨークなどの大都会とは感覚が違う」とのこと。このような雰囲気の中、私ものんびりと過ごし、じっくり研究を進めていければと考えています。

キャンパスは広すぎて、すべてを歩いて回ることはできません。主要な建物は近くに集中しているので、普段の生活に困ることはないのですが、場合によっては車で学内を移動することもあります。

写真は大学の多目的アリーナで、学位授与式などのセレモニー、カレッジスポーツなどの大学行事のほかに、一般のライブなどが行われます。キャンパスのはずれにあるため、ここに行くには車が必須です。大統領選の際、オバマ候補がここで演説をしました。一方、この大学の近くにアメリカでも有数の空軍施設があります。そのため、この一帯は万が一のとき標的にされやすいそうです。大学にはそれに備えて爆弾用の地下シェルタがあります。そのほかにも竜巻避難用のシェルタも準備されており、大学内の主要な建物は、これら

のシェルタを介してすべて地下道でつながっています。

ところで、私はまだ大学内で日本人を見かけていません。先日留学生のためのパーティがあり参加してみたのですが、日本人を見つけることはできませんでした。日本人つながりで友人を増やしていくのは望み薄です。現在、なるべく多くの友達ができるように、積極的にいろいろな人に話しかけています。偶然にも柔道などを経験し、日本文化に興味のある学生が近くにいる、食事、映画、ボーリングなどに頻繁に誘ってくれます。このような環境の中で、友達の輪を広げていくことは精神的にもとても大切だと感じています。

7. むすび

今回は、留学の申請からこちらでの生活準備までを書かせて頂きました。海外留学に対していえることは、どの制度を使うにしても自ら申請する自主的な姿勢を伴わなければ、門戸は開かれないという点です。留学を実現するにあたり一番大事なことは「何が何でも留学したい」という気持ちをもつことだと思います。まだ留学は始まったばかりであります。自身の留学が皆さんにとって魅力的に見えるよう、頑張り、楽しみたいと思います。

文 献

- [1] <http://www.jsps.go.jp/j-ab/index.html> など。
- [2] Skype Limited, <http://www.skype.com>
- [3] Kerry Blue Book Co., Inc., <http://www.kbb.com>



関屋 大雄(正員)

▶ 1996 慶大・理工・電気卒。2001 同大大学院博士課程了。同年千葉大大学院自然科学研究科・助手、現在、同融合科学研究科・助教。2008 より Wright State University に訪問研究員として留学中。主として、通信用電源、電力増幅器、通信の信号処理、及び電子回路の非線形問題に関する研究に従事。博士(工学)。IEEE、情報処理学会、情報理論とその応用学会、信号処理学会各会員。